

有栖山公園通信

其乃拾八

平成十九年十一月十一日（病み鍋 PARTY 2）
有栖山公園 (<http://www.aliceyama.jp/>)
有栖山 葡萄 (budou@aliceyama.jp)

有栖山公園は「かもすぞジャパン」を応援しています 

はじめまして&おひさしぶり、本日は御立寄りいただきありがとうございます。
「有栖山 葡萄」と申します、しがない二次創作小説書き同人屋にございます。

さて今回は、mixi ヤンデレコミュニティから生まれた合同誌「日本病的恋愛譚（にほんヤンデレものがたり）」をお送りします。

全世界的に見ても神話その他昔話には、ヤンデレ話が数多く登場してきます。嫉妬・妬み・思い詰める愛……様々な形ですが、深い愛を語る物語にはヤンデレがつきものです。殺害に走ったり自傷したりするのは、独占したかったり相手に見てもらいたいという想いの強さからで、決してただのグロイ猟奇物ではないのですよ。人の想い、愛を語った物語だからこそ人の心に響く話が数多く残されているのでしょう。そんなヤンデレ話は書くのは難しいですが、私は大好きです。ヤンデレ最高！

それと、自サークルの Days 本は落としてごめんなさいということで。冬コミには皆様のお手元に届けられるよう、現在も鋭意執筆中です。がんばりますよ～。そして、冒頭部分をちょっとだけ下で公開。

次回イベントは、コミックマーケット73 三日目「Q-57b」にて参加いたします。
SchoolDays の新作と君望小説、今回も二冊体制で臨みたいと思います。ええ、うちは君望サークルなんです。さてはて、どうなりますことやら……

では、またどこかでお会いしましょう。

2007年霜月 有栖山葡萄

誠が欠伸を噛み殺しながら、ホームに停車した車両に乗り込む。
榊野学園の学園祭は無事に終わり、今日からまたいつもの日常が戻ってくる。

いつもの通学路、いつもの学校、いつもの授業。それは学園祭前と何も変わらない日常が、再会されただけのように見えた。一部の生徒を除いては。

「ねえねえ手を繋いでるあの子達、後夜祭で踊ってたわよね」「あ、ほんとだ。この間までは微妙な距離おいてたのに、見せてくれるねえ」……

学園祭のフィナーレ。後夜祭に行われるキャンプファイヤー。その周りで行われるフォークダンスと一緒に踊ったカップルは学園生の公認カップルとなり、一年間は別れないというジンクスがあった。

彼らがどちらから誘ったのかは分からないが、二人は電車の中で仲良く手を繋いで登校している。この学園祭を通して、彼らの距離は一気に縮んだのだろう。見ていて分かるほどに、二人の周りには幸せな空気が溢れている。

扉の際に立つ誠も、その二人をぼんやりと眺めていた。彼らが幸せになれたのは、自分達と同じきっかけなんだろうと眠い頭で考える。朝の気だるさに身体を弛緩させていると、列車の回生ブレーキが作動しクシッと進行方向に身体が引っ張られる。「まもなく原巴浜、原巴原。お降りの際は……」

鉄道関係者独特の節回しで、車内アナウンスが流れる。誠は揺れに傾いた身体を起こし、まもなくして開くであろう反対側のドアを見た。車窓からの景色が流れる速度は遅くなり見慣れたホーム手前の目印が見える。そして列車は停止する。ドアの硝子越しに、彼女の姿が見える。早く開かないかと待

ち遠しそうに、小さく手を振りながら前に立っている。降りる乗客はいないのでまっすぐ彼女が見えた。誠も小さく手を振り返した。

プシューという音と共にドアが開く。列車に乗り込んだ彼女は、とんとんと軽い足取りで反対の扉近くに立つ誠に近づき立ち止まった。

「おっ、おはようございます、誠くん」

「お、おはよう、言葉」

二人は照れた笑みを浮かべ、見つめあう。

誠は言葉の姿を硝子越しに見た瞬間に、一瞬で目が醒めた。昨夜は彼女と電話で散々話をして、仮眠から目が醒めたときには少し落ち着いたつもりでいた。しかし誠は、言葉の顔を見てドキドキと鼓動が早くなるのを止められなかった。

それは言葉も同じで、見つめ合った顔は見る間に赤くなっていき、指を合わせ小さく動かしている。

「あのおっ」

ベタなアニメのように、二人の声タイミングよく重なった。

「えっと誠くん、なんでしょうか」

「言葉こそ、どうしたの」

なにが照れくさいのか、二人はモジモジとしている。学園祭の前から付き合っているにも関わらず今一歩踏み込みきれなかった二人が、後夜祭を機にようやく一線を越えた。

その翌朝の光景。

もつとべたべたするのかと思えばそうでもなく、二人は微妙な空気と距離を残していた。

「えっと、誠くん。私、昨日はその、ドキドキしてあまり寝てなくて……」

言葉が話しだす。

「朝起きたときは少し落ち着いてたんですけど、いま誠くんの顔を見たらまたドキドキしてて」

テレながらも、なんとか会話をしようと必死に話しかける。

誠も彼女の会話のもつ意味に気がついた。

「実は俺も、昨日はあんまり寝てなくてさっきまでアクビを何度もしてて。でも、言葉の顔見たら一気に目がさめたって言うか……」